

オセアニア・インビテーション大会

2015年10月17-18日、オーストラリア、シドニー

写真・報告：IPF国際審判員

吉田進、吉田寿子



IPFオセアニア代表、ロバートウィルクス氏(右)、左はニュージーランドの国際1級審判員

シドニーの観光スポット

IPFオセアニア代表のロバート・ウィルクス氏より世界記録狙いの大会をするので、審判に来られるか、と、本年度初めに依頼があった。

その後、7月のアジア役員改選で、吉田進が落選、以来、何も話がなかったので、他のアジア連盟トップ役員に審判を頼まれたのだろうと、思っていた。ところが、新アジアトップ役員のイランの会長、カザフの事務局長ともにオーストラリア入国ビザがおりなかったらしく、国際審判員であるということで、JPAの山口理事のところに吉田進と私のオーストラリア行きチケットが送られてきた。

JPAでは、招待で国際大会に行くことは、「アマチュア規定違反」になるというルールがあるそうで、JPA理事内で審査があり、承認を得て、オーストラリアに旅立つことになった。



世界記録挑戦にシドニーまでやってきた児玉選手に、練習内容や、意気込みをインタビュー。多くの観客が見つめる。



開催要項がなく、事情が分からないままに、大会が開催されるという会場に行ってみると、そこは、2000年シドニーオリンピック、パラリンピックが開かれた、オリンピックパーク内のドームであった。

フィットネス&ヘルスEXPOという催しが開催されていて、大勢の人々が集まっていた。フィットネス用品やサプリメントが販売され、ケトル競技、ボディビル、クロスフィット競技が会場のあちこちで開催され、大いなる盛り上がりを見せていた。

アメリカで始まったアーノルドクラシックのように全てのフィットネス関係者が一堂に会し、同じ会場内で、様々な競技会を開催し、より各競技の普及を促進し、また、フィットネスにまつわる様々な商品の販売促進をめざしているようだった。

パワーリフティングは、メイン会場に、舞台が設置されていた。

選手団としては、団長に山口 J P A 理事、59kg級、東坂康司選手、74kg級児玉大紀選手が指名を受け、招へいを受けた。

選手団と私たち審判が会場に行ってみると、世界クラシック大会で優勝したニュージーランドのグレッド・ギブス選手がセミナーをしており、舞台上では、ギブス選手による熱心なベンチ、スクワット、デッド指導が行われていた。

ロバート氏から、児玉選手にインタビューさせてくれ、と、言われ、児玉選手がインタビューを受ける。世界記録を狙いますか、と、聞かれ、もちろんです、と答える児玉選手。

うーん！児玉選手の記録は、クラシックパワー三種のベンチの世界記録を上回ってはいても、正式には、クラシック世界ベンチ記録がないので、アジア記録に成るのではないか???日本選手団はなんか変だなあ、と、思いながらも夕食をごちそうになった。

そして、今回の試合は、シングルベンチではなく、パワー三種で有ることが判明。

このあたり、説明を全く受けておらず、ぜひ、児玉選手と東坂選手に来て、ベンチの世界記録に挑んでほしいという依頼で、シドニーにやってきた。実はパワー三種の試合であると、聞かされ、愕然。



東坂選手のスクワット、ベンチでは、59kg級、165kgのアジア新記録並びに日本新記録をマークした。

児玉選手気迫のデッドリフトで 130 kg 成功。ベンチは 211 kg の世界新樹立



山口団長は、招へいを受けてきたのだから、ここで、ジタバタしても仕方がない、頑張れ、と、檄を飛ばす。

児玉選手も東坂選手も、翌日は 15 年ぶりのスクワットとデッドリフトに挑んだ。児玉選手、東坂選手ともに、何とか、スクワットをこなし、ベンチでは、東坂選手は、一本目、二本目と落としてしまい、三本目にアジアオセアニア記録となる 165 kg を集中力とテクニックで押し切った時には、満杯の会場から大拍手が沸き起こった。

児玉選手は、体重 74 kg でスタート重量 200 kg。会場からは、オー、と言うどよめきが起こった。観客もフィットネス関係の人々ばかりなので、その重量がどれほどのものか、はっきりと知っているようだ。二本目には 211 の世界記録に成功、三本目は、15 年ぶりのスクワットが利いてしまったと 217.5 kg は惜しくも失敗。



二人ともにアジア・オセアニア、世界記録を作り、面目躍如。

山口団長もホッとしておられたようだ。

オーストラリアの協会は、こういったエキスポに参加して今年で 5 年目だそうだ。今年は、パース、そして今回のシドニー、そして来月はブリスベンで同じようなエキスポでオーストラリア選手権を開催し、パワーの普及に努めているという。

多くの人々にパワーリフティングを知ってもらえる絶好の機会だろう。

ナウルからも選手が招待され、ジュニア世界記録を樹立